

中高生がICTを使って地域課題に挑戦！

ドローンやロボット、アプリ、WEBサービス…

中高生が最先端のテクノロジーを使って郡上の地域課題に挑戦する講座が、9月から始まりました。

このプロジェクトは、「総務省地域ICTクラブ普及推進事業」の一環として、参加する生徒たちが楽しみながら地域の課題解決に挑戦し、将来「地域産業の後継者」となる「TOP人材育成」型の地域ICTクラブを実証するものです。9月30日には、特定非営利活動法人HUBGUJO、郡上教育委員会、郡上PTA連合会、岐阜大学、株式会社ROBOZ、郡上ロボットクラブ、株式会社ダイセン電子工業の7者で構成された「郡上地域ICTクラブ協議会」の設立総会を開催し、サポート体制などについて確認する協定書の調印を行いました。



郡上市地域ICTクラブ協議会 発足

郡上地域ICTクラブ協議会の設立総会を開催し、サポート体制などについて確認する協定書の調印を行いました。

ICTクラブには郡上高校から15人、郡上北高等学校から9人、大和中学校・白鳥中学校から各1人、計26人の中高生が集まりました。第1回目の講座のテーマは「テクノロジーを知ろう」です。ドローンやロボット、アプリのプログラミングなどの分野で活躍中のテクノロジー方ルアドバイザー6人が、生徒たちでも使用できる最新のテクノロジーを紹介しました。「写真や動画で見たことあるけど、実物を見たことはない」「自分で扱えるものだ」と思っていたいなかった」と、最新の



こんなテクノロジーを使えるの？



ワクワクするプロジェクト



勇敢な挑戦者たち

テクノロジーに驚き、これからの講座に期待がふくらむ幕開けとなりました。

第2回目の講座では、郡上のさまざまなフィールドで活動している8人にお話を伺い地域課題を研究、12月までの4カ月間で全8回の講座が開講されます。最終日となる12月22日(日)13時からは、成果発表会を市総合文化センターで行います。未来の郡上のリーダーとなる中高生の挑戦に、ぜひ応援をお願いします！

問 HUBGUJO
67・9239

毎月28日は

「岐阜県防災点検の日」

明治24年10月28日、県内において死者約5千人の未曾有の被害をもたらした「濃尾大震災」にちなみ、岐阜県では、毎年10月28日を「岐阜県地震防災の日」、また毎月28日を「岐阜県防災点検の日」と定めています。

毎月28日は、個人、家庭、地域、学校、職場において、災害に備えるための点検を実施する機会ととらえ、地域防災力を高めましょう。

家の中の安全対策 家の中を点検してみよう

◆タンスや棚の転倒防止
背の高い家具は、L字金具やつっぱり棒で固定すると転倒防止になります。

また、ベッドやソファでくつろいでいる時に、本棚やタンスが倒れてくる危険性があります。家具の高さ以上離れるか、寝室には家具を置かないようにしましょう。

◆棚の中身の飛び出し防止
ガラスや陶器など食器の破損は怪我につながります。食器棚など両開きタイプの棚は、扉が開かないように止め金具を取り付けましょう。

◆本棚
自転車の荷ゴムを本の高さの半分より下のあたりに張ることで、本の出し入れがしやすいまま落下を防ぐことができます。

◆電化製品を固定する
電子レンジや大型電化製品は強

力なマジックテープや耐震ゲルマットなどの防災用品で滑り落ちないように固定します。
テレビは高い家具の上に置かず、できるだけ低い場所で固定しましょう。

わが家の危険度を チェック！

地震発生時、安全に屋外に避難することはもちろん、震災後にわが家で暮らす方法を家族みんなで話し合いましょ。

①平面図を描く
方眼紙などに自宅の平面図(すべての階を描きましょう)。

②危険な場所を探す
ガラスや陶器など割れる物がある、タンスなど倒れる家具がある場所をチェックします。

③元栓などの位置を確認
電気のブレーカー、ガスの元栓やマイコンメーターの場所をチェックします。

④避難経路の確認
②でチェックした危険な場所を避け、普段過ごす部屋から屋外への避難経路を考えましょ。

⑤震災後の生活を考える
震災後もわが家で生活するため、どの部屋で生活するか、食料や飲料水はどうするか、トイレはどうするか、寒さ対策はどうするかといったことをあらかじめ考えおきましょう。

(参考) ぎふ防災ハンドブック2019年度版
問い合わせ先: 総務部総務課
TEL 67・1832